

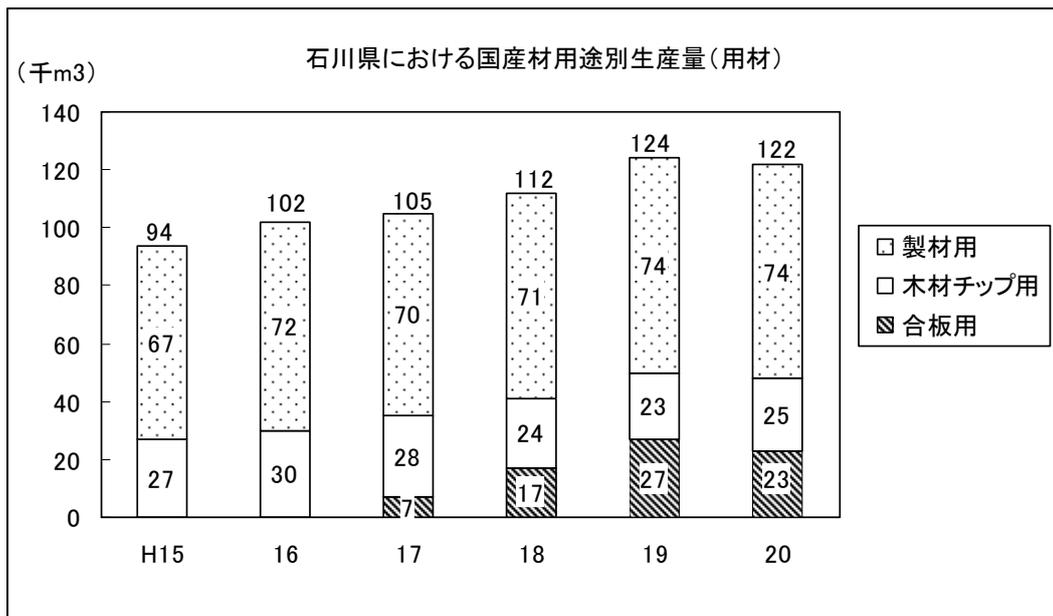
I 石川県における木材産業の概要

1 木材の需要と供給の現状

○ 合板用木材生産が減少 (Ⅱ-2表、9頁)

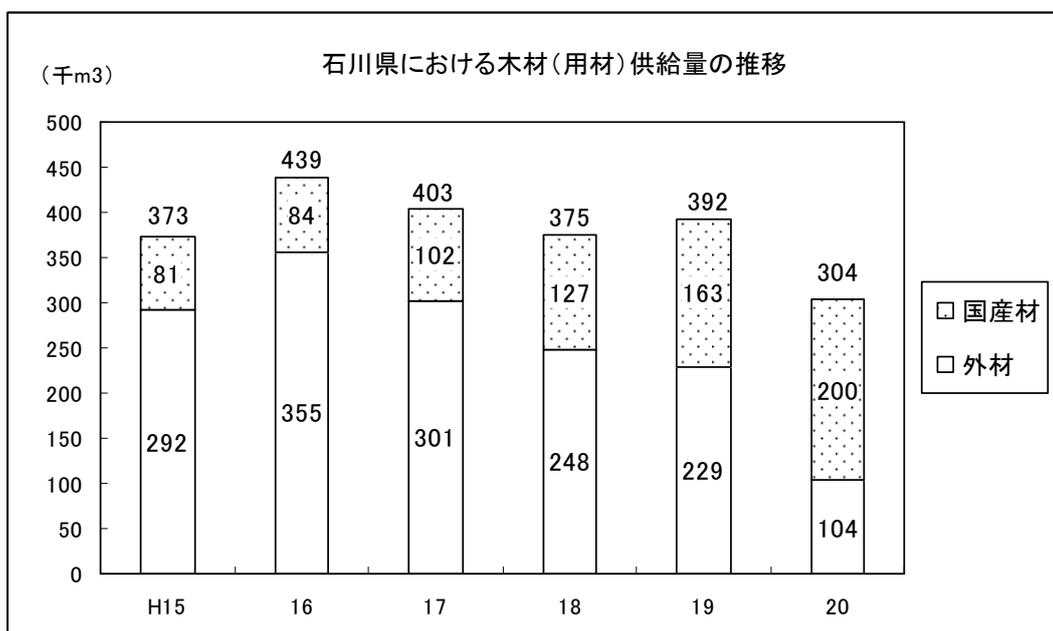
平成20年次の県内木材生産量の総数は、122千 m^3 (対前年98.4%)であった。

用途別では、製材用が74千 m^3 (対前年100.0%)、合板用が23千 m^3 (対前年85.2%)、チップ用が25千 m^3 (対前年108.7%)となった。



○ 国産材供給割合が上昇 (Ⅱ-8表、17頁)

平成20年次の県内木材供給量の総数は304千 m^3 であった。内訳は、国産材が200千 m^3 (対前年122.7%)、外材が104千 m^3 (対前年45.4%)となった。国産材供給率は、65.8%(対前年24.2ポイント増)と大きく上昇した。



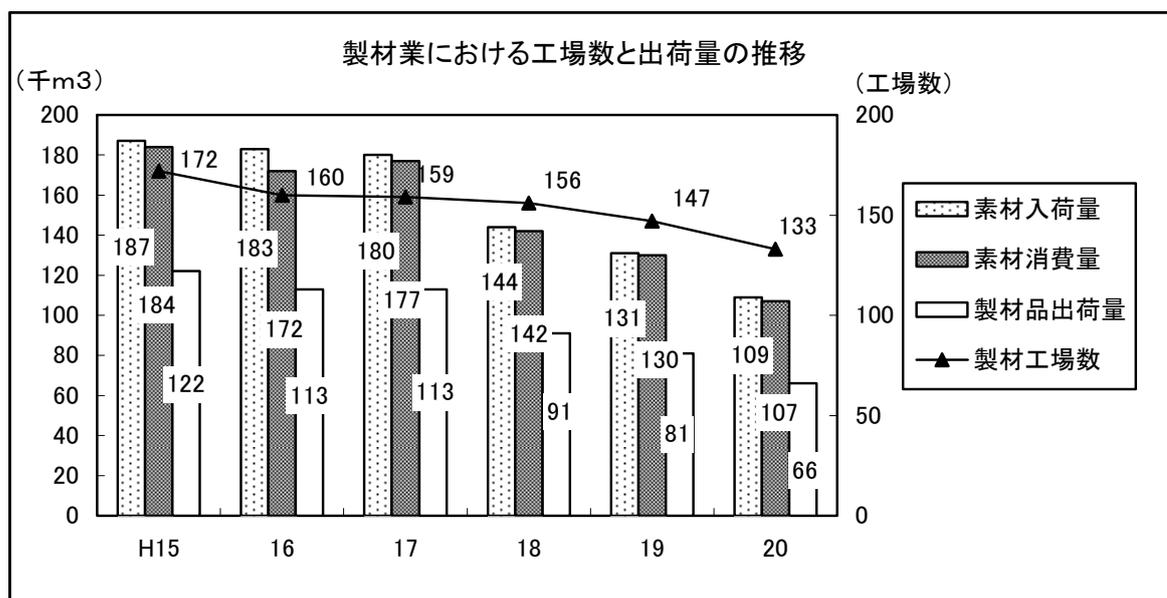
2 木材工業の現状

(1) 製材業

○ 工場数・素材入荷量は減、外材入荷量が減少 (Ⅲ－2表、23頁)

平成20年次の県内製材工場数は、133工場(対前年14工場減)、従業者数は395人(対前年117減)となった。素材入荷量は、109千 m^3 (対前年83.2%)であり、内訳は国産材67千 m^3 (対前年94.4%)、外材42千 m^3 (対前年70.0%)になった。素材消費量は、107千 m^3 (対前年82.3%)であり、製材品出荷量は、66千 m^3 (対前年81.5%)であった。

また、動力の総出力数は、11,072kW(前年比97.6%)であり、工場当たりの出力数は83.2kWであった。



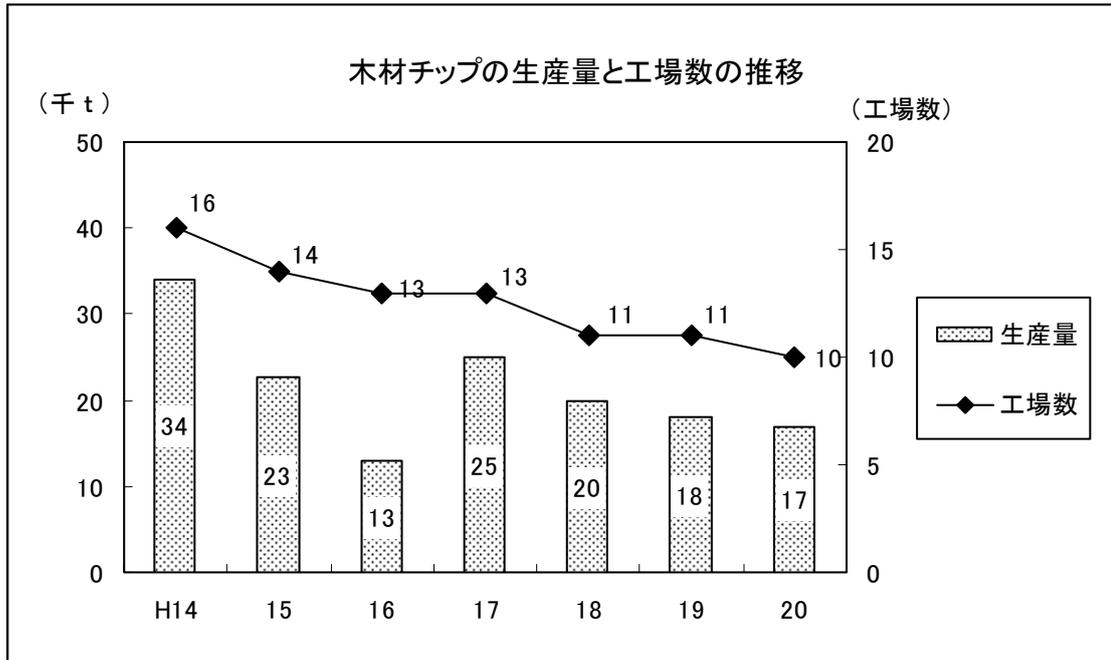
(2) 合板製造業

平成17年次より、法人等の個別情報に関わるため合板製造量等の数字は非公表となっているが、合板製造用原木に占める国産材の割合は上昇している。

(3) 木材チップ工業

○ 生産量は減 (Ⅲ－6表、26頁)

平成20年次の県内木材チップ生産量は、17t(対前年94.4%)となった。原材料入手区分別では、工場残材が7千t(対前年87.5%)、素材が10千 m^3 (対前年100.0%)となった。工場数は10工場(対前年1工場減)であった。



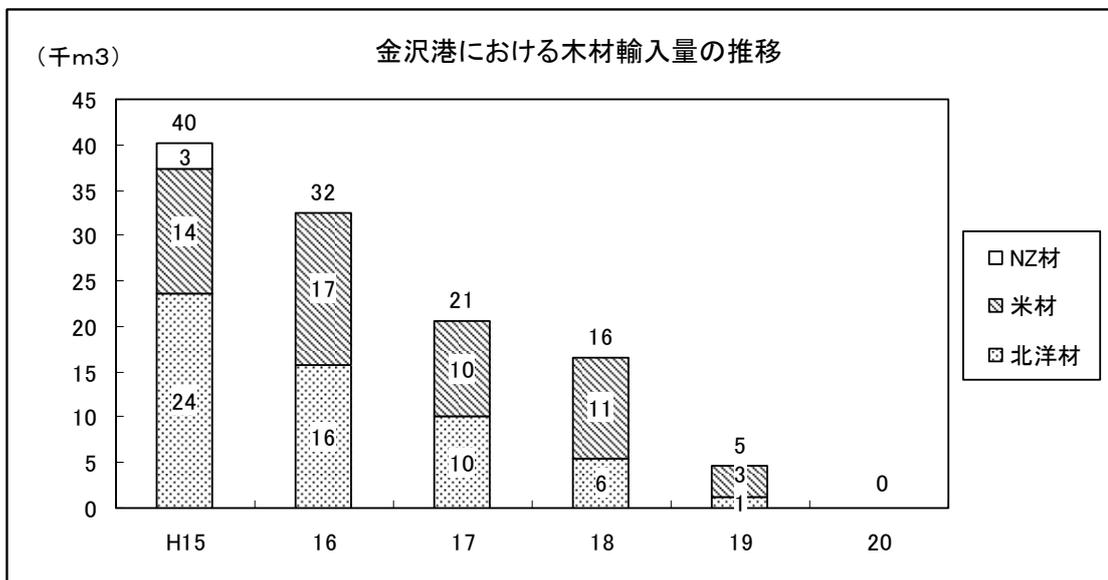
※注：平成14、15年については、容積（ m^3 ）を重量（t）に換算した。なお換算には、林野庁が木材需給表作成に使用している換算率（針葉樹： $1t=2.2m^3$ 、広葉樹： $1t=1.7m^3$ ）を用いた。

3 木材輸入の動向

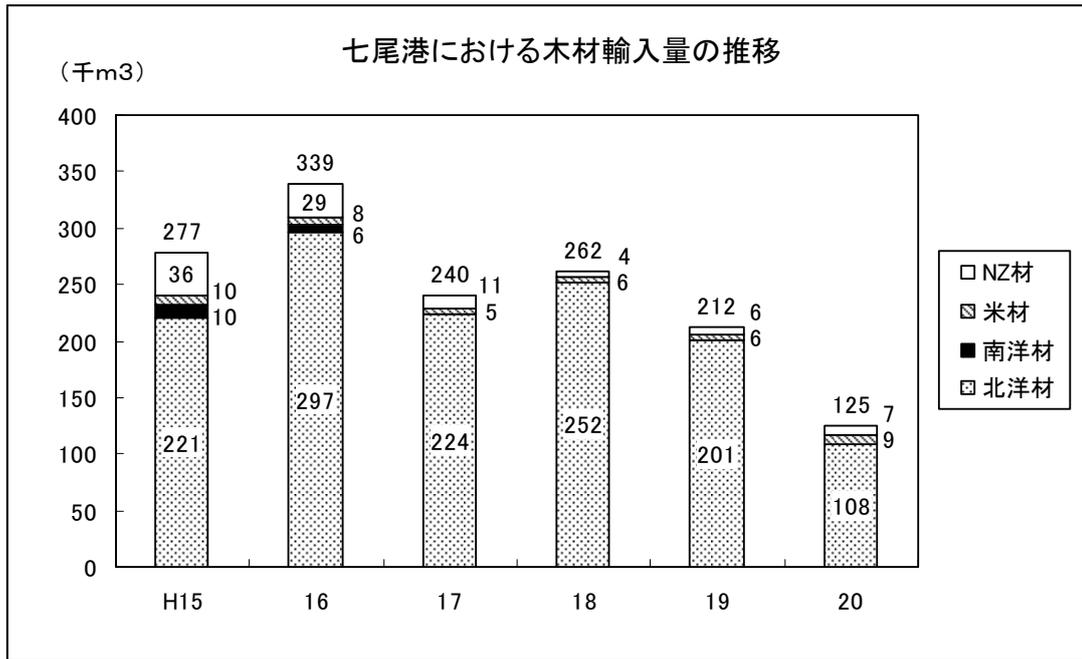
○ 北洋材・米材は減、NZ材は増（IV-1・2表、28～29頁）

平成20年次の県内木材輸入総量は $124,812m^3$ （対前年57.5%）であった。内訳は、北洋材が $108,466m^3$ （対前年53.8%）、米材が $9,023m^3$ （対前年98.4%）、ニュージーランド材（NZ材）が $7,323m^3$ （対前年121.9%）であり、北洋材率は86.9%であった。

北洋材の内訳をみると、カラマツが $66,829m^3$ （構成比61.6%）、アカマツが $11,399m^3$ （構成比10.5%）、エゾマツが $29,844m^3$ （構成比27.5%）、パルプ材が $394m^3$ となった。



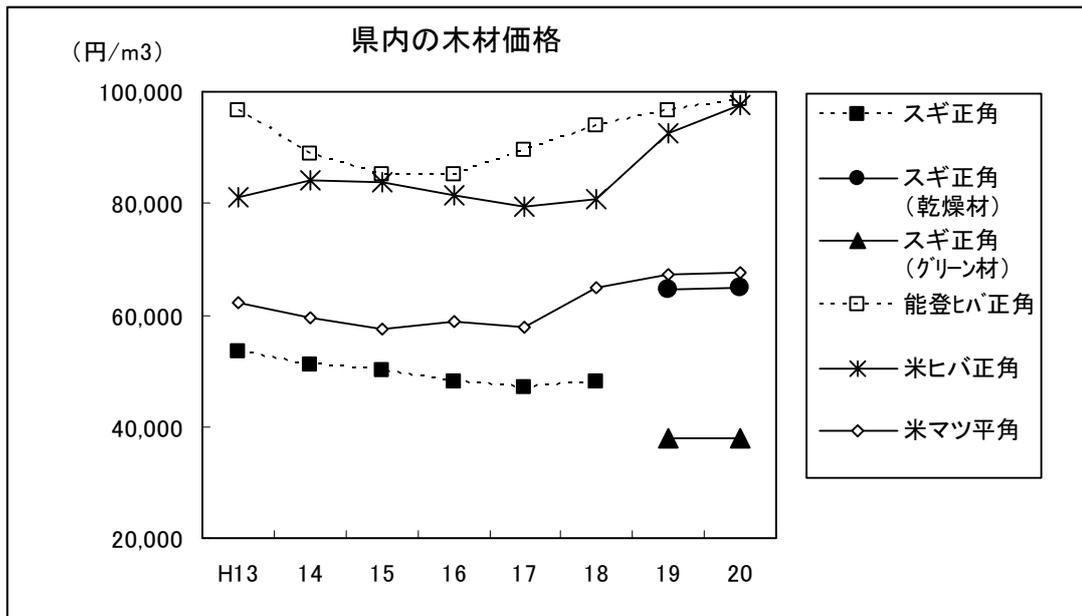
※平成20年次の金沢港における木材輸入量は北洋材 $27m^3$



4 木材価格の動向

○ 製品価格が上昇傾向 (V-2表1、36~37頁)

平成20年次の県内の木材製品価格は、スギ正角(乾燥材)は65,000円/m³(対前年500円高)、スギ正角(グリーン材)は38,000円/m³(前年同額)、スギ正割は50,400円/m³(対前年100円安)、能登ヒバ正角は98,600円/m³(対前年2,000円高)となり、米ヒバ正角は97,500円/m³(対前年5,000円高)、米マツ平角は67,600円/m³(対前年200円高)となった。

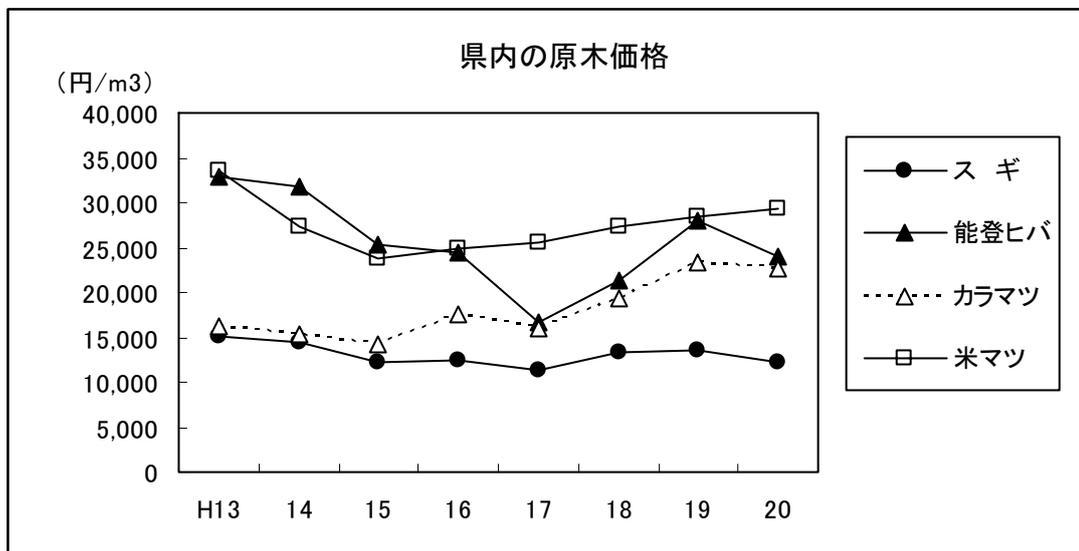


平成19年5月から価格動向調査の調査項目を一部変更。

※スギ正角の調査について、乾燥材とグリーン材を分けて調査開始。

○ 素材価格が下降傾向 (V-2表2、38頁)

平成20年次の県内の製材用素材価格は、スギは12,300円/m³(対前年1,300円安)、能登ヒバは23,900円/m³(対前年4,000円安)となり、カラマツは22,600円/m³(対前年800円安)、米マツは29,300円/m³(対前年800円高)となった。



5 住宅着工の推移

○ 住宅着工が減少 (VI-1表、40頁)

平成20年次の県内新設住宅着工数8,331戸(対前年94.1%)のうち木造住宅は5,866戸(対前年99.8%)となった。新設住宅着工数の木造率は70.4%(対前年4.0ポイント増)であった。

着工新設住宅の総床面積は812千m²(対前年95.6%)で、1戸当たりの平均床面積は97.5m²(対前年101.6%)であった。

